

事業概要

事業目的

- ①NPO協働提案推進事業……行政とNPOの協働のモデルづくり
- ②とよあしはらプロジェクト……水質浄化、生物多様性空間(ビオトープ)創出、地域振興

活動概要

- ①県の湖沼情報を検討 → 設置場所として5ヵ所を選定
- ②水面管理者、自治体の担当者に本事業とプロジェクトの目的を説明 → 協力要請
- ③午前中で終了するイベントとして企画 → 市民に参加呼掛け → マスコミに取材依頼
- ④設置は県、市、市民団体、NPO、各種団体の協働作業

活動の成果

- ①浮島設置……10基(地域の循環型資材の使用量=間伐材50本、竹250本、木炭5㎡)設置

設置場所	実施日	参加人数	参加者の所属(県、とよあしはらを除く)
川越市伊佐沼	8/20	60	荒川右岸用排水土地改良区 伊佐沼の蓮を咲かそう会、市民参加の皆さん
国営武蔵丘陵 森林公園山田大沼	10/23	16	勸公園緑地管理財団武蔵管理センター NPO法人パドリサーチ、来園者の皆さん
飯能市宮沢湖	11/20	17	はんのう市民環境会議、市民参加の皆さん 西川広域森林組合、NPO法人西川木楽会
幸手市行幸湖	11/27	57	幸手市環境保全課、幸手市市民環境会議、 行幸湖カヌークラブ、ガールスカウト第76団、市民参加の皆さん
行田市総合公園	1/29	32 (計182人)	行田市環境課、テクノ・ホルティ園芸専門学校、NPO法人キャンパー NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク、市民参加の皆さん

- ②普及・啓発 NHK……幸手、テレビ埼玉……川越・飯能、テレビ飯能……飯能
(マスコミ報道) 毎日新聞…事業紹介・行田予告、埼玉新聞…森林公園、読売新聞…飯能市
雑誌 PORTAL (No.050) …幸手市

事業成功の要因

- ①NPO法人のメリット活用 → 行政に比べ制約が少ない。意志決定が容易で機動性大。
- ②立場は行政と市民の仲人役 → 市民参加型の公共事業提案 → 行政と市民の協働実現
- ③水質浄化+サブテーマ設定 → 地域特性と課題を想定 → 参加呼掛けターゲット選択
(川越…自然再生、森林公園…野鳥保護、飯能…林業振興、幸手…湖面利用、行田…町おこし)
- ④行政側の裏方に徹したサポート + 市民側の良きリーダーとの出会い

今後の取組

- 事業成果 → 活動モデル → 行政と市民の仲人役 → 市民参加型公共事業の普及

幸手行幸湖での事業風景（平成17年11月27日（日））

ご協力をいただいた団体：幸手市環境保全課、幸手市市民環境会議、行幸湖カヌークラブ、ガールスカウト第76団



実にたくさんの方々と一緒に作業ができました。骨組みを組み、炭を袋につめ、水生植物を植え・・・多くの方とともに行幸湖の環境保全のために汗を流しました。

浮島完成後の記念写真です

浮島には人が乗ることもできます！



行幸湖カヌークラブの皆さんのご指導のもと、完成した浮島2基を設置場所まで引いていきました。最初はなかなか前に進まず苦労しましたが、浮島設置後、帰りのカヌーは秋の風を感じて爽快でした。